

三水会会報

北里大学水産学部
同窓会会報
第 31 号

平成 8 年 3 月 11 日発行

編集者 大野 良 樹

発行 三水会（北里大学
水産学部同窓会）

事務局 〒246 神奈川県横浜市瀬
谷区瀬谷5-22-1石井方
☎ 045-303-3135

振替口座 第一勧業銀行
大手町支店
008-1182388

学部近況報告（長久 英三・水産食品化学講座助教授）

保養所を利用して（佐藤 敏行・3F）

三陸での生物部活動（表 健一郎・生物部主将）

「千葉の会」に参加して（西尾 徹・14F）

第23回漁火祭（漁火祭実行委員会）

漁 火 祭



夏虫山のパラグライダー（三陸町提供）



学部近況報告

長久 英三（水産食品化学講座助教授）

東北大学農学部に移られた佐藤実先生の後任として本学に赴任し、早五年が過ぎてしまいました。二十年近く、民間企業で過ごしてきた小生にとって、当初、一年が前期、後期の二サイクルで進む大学は、時が二倍の早さで進む思いでしたがその感覚は今でも消えません。その間に、



右から、筆者、佐藤実和先生、菅野先生、一人とんで左はじが佐藤実先生

三名の教授をはじめ、四名の教員、四名の職員の方が退職あるいは転勤され、新たに五名の教員、四名の職員が赴任されました。そしてこの三月には当講座の佐藤実和教授も退官されます。まだまだ新人と想っているのに、周りを見渡すともうそこそこ古株に入りそうです（最も、年齢からすれば十分古株ですが）。またその間に新校舎が建設され、研究教育施設も格段によりくなりました。生活環境でも、大船渡には新しい大型店舗が増え、随分便利になりました。こうして見ると五年間というのは結構長い年月なかと、認識を改める必要があります。赴任当初、あれもやりたいこれもやりたいと気持ちばかりが先立ち、なかなか思うように実現できず、いささか焦りぎみでしたが、最近になって、ようやく何とか人並みに自分のライフワークとしての研究テーマに目鼻が付いてきたと感じているところです。毎日の眼鏡をかけた外したりしながらの

実験で、研究室の学生にはしょっちゅう置き忘れた眼鏡を探してもらい、迷惑をかけています。

皆様もご存じの通り、昨今、卒業生の就職難、若年層の減少、大学改革や教員任期制導入論等、大学も非常に厳しい環境におかれています。

そんな中であって、幸いにも本学は高い就職率を維持し、受験者数もむしろ増加傾向を見せています。大学間の厳しいサバイバル競争の中にあって、こうした状況にあることは本学の社会に対する存在意義が益々高まっていることを示すとともに、今日の基礎を築いて来られた先輩諸先生方や卒業生の努力がようやく世間に認知されてきたものと意を強くすると同時に責任の重さを痛感するところです。また昨年当講座の菅野先生が水産学会奨励賞を受賞されるなど、アクティビティの高い研究活動も評価されて来たものと考えています。とはいえ、今後、益々厳しくなる環境にあって、これで満足して

いるわけにはゆきません。本学のさらなる発展にはこうした努力の積み重ねと共に、広報活動も重要になってくると考えています。そうした広報活動の試みの一つとして、昨年夏、初めて高校生を対象に三陸キャンパスツアーが企画されました。何分皆さんご存じの通りのロケーションなので、最初は学生が集まるかどうか心配だったのですが、企画責任者の井田先生初め事務方、支援業者の方々の努力により、全国各地から四十名近い参加があり、一泊二日でキャンパス見学、進学相談、クイズ大会（当初釣大会を予定していたが、天候不順につき変更）、そして夜は研修所でバーベキュー大会と大いに盛り上がり、参加した高校生や付き添いの父兄にも大変喜ばれました。

今後もうこうした広報活動を積極的に進める必要があると考えていますが、何といても、三千数百名の卒業生による口コミに勝る広報はないと思いますので、三水会会員の皆様もぜひご協力ください。

最後にこの紙面をお借りして、水産食品化学研究室の同窓会の予告をさせていただきます。先にも書きましたように、この三月で担当教授の佐藤実和先生が退官され、名誉教授

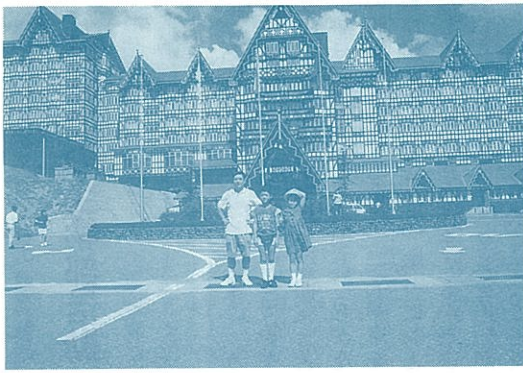
となります。そこでこれを記念して四月か五月頃、盛大な同窓会を東京で開く予定ですので、KUラン

保養所を利用して

佐藤 敏行（3F）

フォートの会員の皆様には万障お繰り合わせの上、是非ご参加いただきたくお願いいたします。

保養施設を初めて利用したのは、七年程前で、延べで十数回になります。夏は、高原の涼気を求めて、冬には、スキーを楽しむにと、軽井沢、



白馬、上越あたりを車で訪れていきます。（いずれも、日本オーナーズクラブ）

軽井沢では、一步ゲートをくぐると花いっぱいのにんにに巨大な自由の女神の像が迎えてくれて別世界の感があります。ヨーロッパ山岳地方を思わせる木と白壁、切り立った屋根のホテルやコテージも点在し、リゾート気分は充分です。

ホテル周辺には、テニスコートやゴルフ場、遊園地と遊びには事欠きません。また、教会もあり、白馬の引く馬車に花嫁、花婿が乗り、ライスシャワーを浴び皆の祝福を受ける場面を見られるかもしれません。

車で少し走れば、浅間山大噴火跡を真近に見られる「思押出し」や清流の美しい「白糸の滝」また、南軽

井沢の牧場などを訪れることもできます。

白馬では、高原のすがすがしい空気をいっぱい吸い込んでのサイクリングや長野オリンピックの施設を見学することもできます。（白馬ではジャンプ競技が行われます。）

また、付近一帯にあるペンション村を回ってみるのも楽しいかもしれません。そして、「樹池自然園」の散策は、絶対のおすすめです。

上越では、もちろんスキー三昧。リフト一日券を含んだ宿泊パックは大変お得です。朝からナイターまで思う存分楽しめます。スキーの腕前によりコースもいろいろで安心です。ホテルを出るとすぐにグレンデで、色とりどりのウェアも眩しく、またリフトも整備されているので待ち時間もほとんどありません。雪質も良く、この時ばかりは日々の雑事を忘れ、スピードに酔いしれる思いです。

お影様で、ほとんど毎年利用させて頂いていますが、料金が安くて本当に助かります。ほぼ一日一人八千円位でしょうか。（宿泊プラス食事五千円クラスとして）

一般利用の料金は、その三倍位なので充分満足できる施設です。また、

全国各地に都市滞在のシティ型のもの、観光、レジャー型のもの、そして海外のリゾート型のものといろいろあるので、旅行のみならずビジネス、学会等での利用もできます。

さて利用方法ですが、年間四期に分かれている利用期間の締切りに合せて同窓会へハガキで申し込みます。（春に出る会報に詳細があります。）締切り後に抽選が行なわれ、当選すれば同窓会の方で予約をしてくれます。もし満室であっても空室情報が出るので助かります。

予約ができたならその内容を同窓会へ専用のハガキで連絡し、その後に利用券が返送されて来ます。

あとは、その利用券を持って目的地へ出発です。

最初の抽選にもれても、追加当選の可能性もあるので、最後まであきらめない方が良いでしょう。

申し込み等が複雑な感じがするかもしれませんが、慣れればさほど苦になりません。

現在は、妻と二人の子供と利用していますが、数年後には夫婦だけでゆつくりというようになるかもしれません。ともあれ、末永く利用させて頂きたいものです。

〈クラブ紹介〉

三陸での生物部活動

表 健一郎（生物部主将）

「あっ！ イヌワシだっ！」「うお！ すごい！」、さっきまで穏やかであった車内が異様な雰囲気と苦しいほどの熱気に一転した。私がその状況を理解する前に、一人が車を飛び出したかと思うと、隣りにおとなしく座っていた女性までもが飛び出して来て、そのイヌワシを追いかけていった。これが私にとって三陸



での最初の生物部の活動であり、すごい衝撃を受けた。その時、私の目に飛びこんできたものはイヌワシではなく、それを追いかける人達であった。双眼鏡を覗く者、カメラのシャッターを必死に押す者、図鑑を調べる者、それらの誰もが瞳をきらきらと輝かせていた。

私はそのきらきらとした瞳を見た時、小さい頃の私を思い出した。私達が子供の頃はまだテレビゲームもなく、遊びといえば外でするものがあり、川で魚獲りをしては夢中になり夕暮れには海までいっていたり、朝早く起きては眠い目をこすりながら森に入りカブトムシを獲って遊んでいた。そう、毎日が大冒険ごっこのようなものであり、みんながトムソーヤであった。そしてそこは誰の束縛も受けない私たちの世界、自由な場所、それが自然のフィールドであった。今、考えると私たちの世代がちやうど自然と関わって育った最後の世代であるように思える。

そんな私たちも中学に入り高校を卒業した時には、あのきらきらとした瞳はくすみ、そして子供の頃の自分らしさや何か大切なものをどこかに置き忘れてきたような気がしていた。しかし、イヌワシ騒動でのあのきらきらとした瞳を見たとき、忘れていた大切な何かを少し思い出すことができた。そう、これが生物部なのである。もちろんその後、私が生物部にのめり込んでいったことは言うまでもないが……

あれから二年が経ち、私は今生物部を引っ張っていく立場になった。私はあの時何かを教えてくれた先輩のように後輩たちに何かを感じさせることが出来たのであろうか。何かを見つけることが出来るのであろうか。

「千葉の会」に参加して

昨年十一月二十五、二十六日、千葉県富津市の横田屋旅館において「千葉の会」が開催された。今回の参加者は四期六名、五期一名、十期一名、十四期三名の合計十三名であった。

うかと考える時がある。しかしそんな心配も、自然のフィールドで活動する彼らの瞳を見た時に吹き飛んでしまう。

そう、三陸という地は、子供の時に持っていた何か大切なものを思い出させてくれる所なのかもしれない。その証拠に、三陸にいる水産学部の生徒は「釣りバカ」や「自然大好き」という連中ばかりであり、彼らの瞳は子供の頃のあのきらきらとした瞳をしているように思える。そして、自然に囲まれ子供のようになつた自分を見つめるとき、私はただの子供になるのではなく、本来の自分らしさでいたいだけなのだと思う。私は長靴を履き、たもを担いで、今日も何かを探しに出かけようと思う。

西尾 徹（14F）

この会は、最初は三水会の役員でもある四期の畠山氏（千葉県漁業振興基金勤務）・町野氏（千葉県種類務）らが、近郊に在住の同期の方々に声をかけて同期会兼忘年会として始められた会であり、もう十年以上

続いていると伺っている。

「千葉の会」としているが、幹事の方の住居・勤務先が千葉のため、開催地が千葉近郊となっているだけで、東京都や神奈川県在住の方も参加しており、千葉在住でなければ参加できない訳ではない。

また、参加する代も四期の方が中心に初めた会ではあるが、仕事関係等から輪が広がりつつあり、筆者も十四期であるが、五年ほど前に十期の高坂氏（千葉県漁連勤務）からお誘いを受けて以来参加させて頂いている。ここ数年は「誰でも連れて来てよい」とのお言葉に甘え、同期に声をかけて仲間に引き込んでいく。

筆者が参加し初めた当初はご家族同伴の会であり、日曜日はそれぞれが近くの観光地へ家庭サービスというパターンであったが、ここ数年は男性のみの参加となっている。

会の雰囲気は、前述のとおり今回の参加者が上が四期、下が十四期と十年程度の年齢差があるものの、そういうギャップはほとんど感じられず、三陸時代のアパートやクラブの先輩と飲んでいるような雰囲気、和気あいあいと非常に楽しい会である。

会の日程は毎年十一月の最終週の

週末と決まっているため、毎回参加している方々からは一〇月末ごろになると「今年はどこでやるのか」との催促が幹事の方のところに來ることも多々あるようである。

今年は十一月の二十三日・二十四日に開催される予定ですので、興味のある方は、下記の幹事担当の方・筆者等に十月ごろにでもお問い合わせいただきたい。

第二三回漁火祭



（幹事担当）

財団法人 千葉県漁業振興基金

畠山 俊行

TEL. 043-242-6831

（筆者）

全国漁業協同組合連合会

漁政部 漁政企画課

西尾 徹

TEL. 03-3294-9614

漁火祭実行委員会

昨日の十月十四、十五日の両日に第二十三回漁火祭が開催されました。当日は天候にも恵まれ秋晴れの空の下、学生のパワーが爆発しました。

本年度「三陸の楽日」と掲げられたテーマには、来場されたあらゆる人々にとって楽しい一日であったほしい、また今までは違うこの三陸ならではの漁火祭を作り上げたいという我々実行委員の願いが込められていました。

「三陸ならではの」という今まで経験のないこの難題を解決するためにまず、この三陸町という小さな町とそこに生活する我々学生を含めた

人々について深く考えることが必要でした。日夜努力を重ねた結果、周囲の環境や地域との交流の深さが他とは異なるこの水産学部らしさをアピールするポイントだと考え、企画や展示模擬店を作るに当たってこれらを必須条件に挙げました。

その甲斐あってか本年度は企画、展示、模擬店ともに水産学部らしさが強く感じられるものとなりました。特に企画の面では、テレビ中継によるフジッポの試食や鮭の解体、魚介類をたくさん取り入れたクイズ等の放送、また今年三月に新しく水産増殖学講座の教授に就任された岩田先生による講演会等の水産ならではの企画が多数催され、好評を博しました。

さらに今までと違う学園祭と言うことだけにこだわらず毎年恒例のチャリティーバザー、研究室やクラブの展示等、人気のある企画については従来通り引き継ぎました。チャリティーバザーでは開始前に長蛇の列が出来る程の大盛況ぶりを見せました。

今年はより来場しやすいようにバスの増発、新聞を使った広告等広報活動にも工夫を重ねるにより多くの方々が来場して下さいました。第

二土曜ということから招待できなかった地元の小中学生やテレビ中継を見て来場して下さった方も多くいて嬉しく思いました。

後夜祭では、恒例の「美女」に目を覆う様な「美女？」が多数参加し、また軽音ライブも普段見られない大変な盛り上がりを見せ我々の造り上げた「楽日」の最後を飾ってくれました。

第二十三回漁火祭が今までより水産らしくあらゆる人々の楽日であるようにとの願いを込めながら我々実行委員は努力してきましたが、その実現のためには周囲の理解と協力が不可欠であると実感しました。この学園祭は学生の力だけではなく多くの地元の方々の支援の上に成り立っているものであり、これからも続いていくものだと思います。

最後になりましたが、今後より一層活気のある漁火祭となるよう願うと同時にこの楽日の開催にあたり、多くの方々にご理解、御協力頂きましたことを感謝し、深く御礼申し上げます。

☆

☆

From 事務局

平成8年度総会の開催について

下記により平成8年度総会を開催いたします（会員は傍聴できます）。

〈開催日時〉平成8年5月19日（日）11:00～

〈開催場所〉北里大学薬学部E号館8階 802会議室（白金校舎内）

〈協議事項〉平成7年度事業報告・決算、平成8年度事業計画・予算、その他

関東地区会員親睦会のお知らせ

三水会では毎年、関東地区の会員とご家族を主な対象とした親睦会を開催しておりますが、今年は、標高1,000mの富士山麓の樹々に囲まれ、広大な庭園、花畑、アスレチック、薬草園などの施設のある恩賜林庭園で、「森へようこそ」をテーマに開催します。バーベキューやお子さん方には巣箱づくり、森のお話しなどの企画を予定しています。楽しい一日をご家族で過ごしませんか。多数の方々の参加をお待ちしております。

参加を希望される方は、会員名、卒業年、住所、電話番号、参加者数（大人・子供別）を明記し、郵送またはFAXで6月30日までに事務局までお申込み下さい。参加希望者には地図等詳しいご案内を差上げます。

1. 開催日時 平成8年7月27日（土）（午前10時現地集合）
2. 集合場所 「恩賜林庭園」山梨県富士吉田市富士北麓公園
3. 参加費 大人 2,000円 子供 1,000円（小学生以上）
4. 参加申込み先

◆《三水会事務局》 〒246 横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1 電話・FAX 045-303-3135

From 三陸町

“三陸でのお泊まりは夏虫山山麓の“遊・YOU・亭夏虫”へどうぞ”

三陸町では、名峰五葉山を背に、眼下に越喜来湾を望む夏虫山高原の裾野に、宿泊、コテージ、レストランを備えた“遊・YOU・亭夏虫”を町の第三セクターで経営しています。天然素材・気仙杉で造られた当亭で、木肌の温もりの中、鹿肉・鮑・ウニ等の本格的料理を楽しみ、木立の中から漁火を眺めながらゆっくりとお休みいただきたいと存じます。

三水会の会員並びにご家族は下記金額から1,000円割引させていただきます。●宿泊料（お一人様、1泊2食付）本館（バス付）9,800円、（バス無）9,000円、コテージ（バス、トイレ付）9,000円

●ご予約・お問い合わせ先 TEL 0192-44-3711 気仙郡三陸町越喜来字小出50-1

ご好評を得ております三陸の味については、下記までお問い合わせいただければ資料をお送りいたします。ワカメ、ホヤ、ホタテ、ウニ、鹿肉等取り揃えてお待ちしております。

◆問い合わせ先：「三陸町ふるさと振興課」TEL 0192-44-3241 FAX 0192-44-2883